

Get Heart

No. **37**
2007.2



特集

第9回 平成18年日野川フォトコンテスト入賞作品

イベントレポート

お正月にチョット出かけてみました!!

日野川の歴史

第3回 日野川の渡し

米子市歴史館運営委員長
杉本良巳さん

日野川「もの知りさんに聞いてみよう23」

多自然型川づくり

金賞



「雪の湖」 山田 洋司 撮影場所：西伯 緑水湖

銀賞



「清流「日野川」下り」 小谷 元伸

銅賞



「日野川光芒」 妹尾 賢次

銀賞



「激」 神崎 順子

入選



「秋の清流」 真砂 美鈴

銅賞



「流れ」 進藤ふじ子

入選



「零時の日野橋」 池淵 和久

入選



「空と森と川」 奥谷 路子

入選



「ああ我が故郷よ」 安達 裕輔

入選



「境界」 花田 知穂

● 入賞作品一覧 ●

部門	審査結果	題名	氏名
一般A	金賞	雪の湖	山田 洋司
	銀賞	清流「日野川」下り	小谷 元伸
	銀賞	激	神崎 順子
	銅賞	日野川光芒	妹尾 賢次
	銅賞	流れ	進藤 ふじ子
	佳作	日野川からの遠望	上田 福美雄
	佳作	青い川	大森 博
一般B	入選	秋の清流	真砂 美鈴
	入選	零時の日野橋	池淵 和久

部門	審査結果	題名	氏名
一般B	佳作	静落な湖	佐伯 範夫
	佳作	スパイダーマン危うし!?	池淵 美和
	佳作	水面	表敷 千津子
	入選	空と森と川	奥谷 路子
小・中学生	入選	ああ我が故郷よ	安達 裕輔
	入選	境界	花田 知穂
	佳作	ポツン	坪倉 修平
	佳作	A・Tさん	松村 佳奈

お正月にチョット出かけてみました!!

平成19年のお正月を迎え、皆さんすがすがしい気分で、今年こそは!!と意気込んでいらっしゃる方も多いことと思います。しかし、毎年、お屠蘇を飲みながらゴロゴロしている私に、「お正月」の記事を書けとは、いささか酷ではありませんか?いえいえ、「今年こそは!!」と意気込んで、チョットだけお正月に出かけてみました。

まず最初は、身近なところで氏神様に……1日の0時過ぎてから詣る風習が私の田舎ではありますが、いささか早すぎます。チョットそまでは……というわけでこれは後回しにして。(最初から意気込みが感じられません)

それならば、少し早起きをして、初日の出を見に行こ〜。どうせなら大山も一緒に写せないかな〜。ということで、まず、初日の出を拝みに大山まで出かけました。

この日、朝方は薄曇りで絶好とまではいかないまでも、なんとか初日の出を拝めそうな天気でした。しかし、米子の方は日が当たっているのに、大山は標高が高く日の出が遅い!!大山の近くで初日の出を拝むのは不向きかもしれません。待つこと1時間、なんとか初日の出を拝むことが出来ました。



大山放牧場からの初日の出
米子の日の出は7時16分、ここは8時20分 随分待ちました。
初日の出を拝むには不向きかも



当然下界の方が、早く日の出を見ることができ、米子のほうは、既に日が当たっていました。
元旦は、空気が澄んでいて、隠岐島まで一望できました。

我が集落の氏神様にもお参りをしましたので少しだけ紹介。年末からの雪で、ザックザックと雪を踏みしめながら。小さい集落なので、足跡もまばら。



大瀧神社

この日最後にお参りしたのは、「日本で一番縁起の良い名前の神社」、日野郡日野町金持にある金持神社です。

御祭神は、^{あまの とこたりのみこと}天之常立尊、^{やつかみすおみ すめのみこと}八束水臣津努命、^{あみ すめのみこと}淤美豆奴命で、売店横の看板には、国土経営、開運、国造りの神様をお祀りしているとのこと、なんと事務局(国土交通省日野川河川事務所)の職場と密接な関係にあるのではありませんか。

また、境内にある金持神社由緒の看板には、“この「金持」という縁起の良い名前から、昭和後期から注目され始めた。「当社に祈願してから宝くじを買ったら大当たりした」とか、その真偽は別として、噂が噂を呼んで今様流行神となりつつある。”とあり、本殿の下に奉納してある絵馬にも、宝くじ、パチンコ、競馬……の願いがかかれたものも多くありました。また、「^{はせ べのぶつら}長谷部信連公の再起」といった開運伝説も伝わります。



10時頃には、境内には20~30名くらいの参拝者がおられました。



境内では、獅子舞が行われていました。

元旦の9時30分頃には、獅子舞が行われており、これぞ日本のお正月といった感じ。「今年一年家族が健康でありますように」「お金持ちになれますように」「仕事が順調にいきますように」……などと百五十円のお賽銭の割りに多くのお願いをしました。ちなみに、国土経営・国造り関係の願いは、後で知ったので残念ながら〜(言い訳です)、また百五十円ではこの願いはチョット恥ずかしいかな?



当然、御神酒を頂いての運転は出来ません!!

最後に、宝くじ当たらないかなー、パチンコで勝てないかなー、給料上がらんかなーとの期待をかけて「金持神社金運守護」のお守りを購入し、神社を後にしました。

今回は紹介しませんが、神社から川を渡った先には、売店があり、お酒、せんべいといったおみやげや、幸せを運ぶ黄色いハンカチ、財布(これも黄色だった)、お守り、絵馬等々縁起の良いグッズが売られていますし、金持神社境内には、鳥取県銘木100選のサワラ、チャンチンの木があります。

今年の初詣は、この記事が出る時には時季がはずれていますので、来年の初詣、また、機会があれば金持神社にお参りしてみたいかがでしょうか。

以上、初日の出、氏神様、金持神社とお正月にチョットでかけてみました。今年一年皆さま幸せでありますように!!

日野川の歴史

第3回 日野川の渡し

杉本 良巳さん（米子市歴史館運営委員長）

江戸時代に米子から岡山県新庄へ向かう出雲街道の難所は峠越えと川越えであった。わけても日野川越えは賃金が必要なうえ、危険を伴う最大の難所であった。米子から溝口へ行く時と、溝口から二部へ行く時、そして舟場から根雨へ渡る時と、3度の川越えが必要であった。こうした渡りの繰り返しが旅人を悩ませた。

江戸末期に編集された『伯耆志』によると、米子から日野川の渡り場として4つのルートがあった。

- ①八幡村から馬場村（現在の東八幡）へ〈八幡の渡し〉
- ②四日市村（現在の福市）から古川・豊田村（現在の古豊）へ〈上の渡し〉
- ③車尾村から熊党村へ〈中の渡し〉
- ④上福原村から日吉津村へ〈下の渡し〉

どのルートを選ぶかは旅の目的地にもよるが、その時々水量や川床の状況にもよったと思われ、上方へ向かう旅人が最も多く選んだのは“八幡の渡し”であった。八幡へは米子から勝田村を経て米川土手を上って観音寺村で法勝寺川を歩いて渡る。このあたりの法勝寺川の川幅は約30m、水深約60cmであった。

法勝寺川を渡ると、日野川土手沿いに八幡村まで行くのであるが、ここの渡しは明治以降も渡りの好場所として利用された。ここいらの日野川は川幅が300mからあるが、水の流れは2筋あって、1つは幅約30m、深さ約1m50cm、他の1つは幅約60m、深さ約75cmであった。深い方は舟で渡し、浅い方は歩いて渡った。『伯耆志』は“八幡の渡し”について「渡舟一艘。渡舟は馬場村と相兼て官より米2石4斗（6俵）を給す。常には仮橋を懸けて往来を便せり。河幅は150間と云えり」と記している。

ふだんは仮橋を架けたり、舟で渡したりしている渡り場もいったん洪水ともなると、「両三日渡るべからず」という状態になった。

溝口の渡し場は鬼守橋の上流にあった。溝口の南外れに「字船場」の地名が残っている。ここが溝口の渡し場で、対岸は宇代うだいの「字大守おおもり」である。『因伯地理志』（1726）によれば、「川幅約60m、深さ1m35cm、舟で人を渡す。洪水すれば即ち1日ほど渡るべからず」であったという。松江藩主が参勤交代で渡る時は、米子の深浦から舟頭を招いた。

溝口側の渡し場は護岸工事で旧状は失われているが、大守の岸辺は現在竹やぶに覆われてはいるが、取り払えば石段など江戸時代の渡し場の施設が見られるはずである。松江藩の一行は渡し終えると、近くの大守神社で隊列を整えたといわれている。

二部から間地峠を下っていくと舟場に出る。舟場は文字通り日野川の渡し場であった。舟場の渡しは集落の下側にあつて舟で渡した。

天保2年（1831）の記録によると、舟場の渡しの御舟手組は「武庫むこ、俣野またの、下安井、州河崎、舟場、渡、奥渡、根雨まな、眼角すみ、板井原、金持、貝原、野田、津地の14か村」で構成されていた。

舟場の対岸の根雨の船着場は、現在国道と鉄道を造成した盛り土の下になっている。

以上が出雲街道の渡し場であるが、これはあくまでも街道を旅する人の渡し場であつて藩営である。しかし、地域の生活の場としての日野川の渡しを考えればもっと多くの渡し場が必要である。それは藩にとつても同様であつて、たとえば黒坂には陣屋があつたが、そこに渡しが必要であれば不便である。それが黒坂村御舟手組で、黒坂、安原、上菅、下榎、榎原、久佳、小河内、中菅、下菅の9か村で構成されていた。

藩営以外には官許を受け、運上銀（営業税）を上納して交通の便をはかる私設の渡舟があつた。日野川上流では上菅、野田、洲河崎、久連、庄などが知られており、いずれも渡場と舟を所有していた。ただこれら私設渡舟の維持経営がどのように行われたかは十分明らかでないが、上菅に「船田地」と呼ばれるものがあつて、その小作米を渡舟の維持管理むらなかもちに当てたようである。「船田地」は所有者を失った後、村中持として明治に至った。

現在、日野川に架かる鉄筋の橋を渡るたび過去の苦勞が偲ばれ感無量である。



舟場の渡し場に建立
「毛槍を振る奴」の像
石田 明 製作



八幡の渡し場 大正年間

日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・23

た し ぜん が た かわ 多自然型川づくり

多自然型川づくりとは？

多自然型川づくりとは、河川の護岸整備などにおいて、治水面の安全性は確保しながらも、生物の生息・生育環境を出来る限り変えることなく、景観にも配慮して工事を行う「自然と調和した川づくり」のことです。従来のコンクリート張に替わり、じゃかご(金網に玉石や砂利を詰めたもの)や、魚のすみかとなる空隙のあるコンクリートブロックなどで河岸を整備しています。これにより、地上部には植生を回復させ、水中には水生生物の生育環境を提供します。また、直線的な河川整備ではなく、瀬や淵など川独特の蛇行形状も保存します。現在行われている全ての河川工事が、この多自然型川づくりの理念に基づき実施されています。



蛇カゴ

日野川の多自然型川づくり事例(吉岡護岸)

米子市吉岡の新日野橋と日野橋の間にある護岸は、多自然型川づくりとして平成13年に整備されました。護岸ブロックには、植物が繁茂できるように空隙の有る多自然型ブロックの採用、ワンド(川ぞいにある大きな水たまりの部分)を作り、稚魚などの小さな生き物のすみかとなるよう配慮しました。また階段を設けたことにより、水際に安全に近づけるようになっていきます。現在施工後5年が経ち、護岸ブロックもすっかり従来植物で覆われ、良好な自然環境が復元されています。



施工前(平成12年11月撮影)



施工後(平成14年3月撮影)



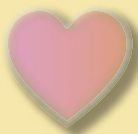
現在の吉岡護岸(平成18年6月撮影)

使用した多自然型ブロック



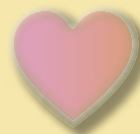
ブロックとブロックの間隙に、石や土を入れることができる。左の現在の写真から、施工前のように、植栽が回復していることが分かる。

日野川にはこの他にも環境に配慮した工法で川づくりがされている箇所があるので、どこに工夫がしてあるか見つけてみてくださいね。



イベントあんない

INFORMATION



●伯耆町

「彼岸市」

平成19年3月21日(祝)
問い合わせ先……伯耆町商工会
TEL 0859-62-1184

●江府町

「自作そりワールドカップin奥大山」

平成19年2月18日(日)
開催場所：奥大山スキー場
問い合わせ先……エバーランド奥大山
TEL 0859-77-2828

「奥大山SX大会スノーボードクロス」

平成19年2月25日(日)
開催場所：奥大山スキー場
問い合わせ先……エバーランド奥大山
TEL 0859-77-2828

「西日本烏ヶ山スラローム大会」

平成19年3月11日(日)
開催場所：奥大山スキー場
問い合わせ先……エバーランド奥大山
TEL 0859-77-2828

●日南町

「日南町民ミュージカル」

平成19年3月4日(日)「旅立ち」
平成19年3月11日(日)「ぼくたちの選んだ道」
開催場所：日南町総合文化センター
問い合わせ先……日南町総合文化センター
TEL 0859-77-1111

「美空ひばりフィルムコンサート」

平成19年3月18日(日)
問い合わせ先……日南町総合文化センター
TEL 0859-77-1111

「佐武コレクション」

「足羽俊夫作品展」

「日南町の地質と化石」

平成19年3月3日(土)～3月25日(日)
開催場所：日南町美術館
問い合わせ先
TEL 0859-77-1113



編集後記

最近、地球の温暖化やエルニーニョ現象など天候の不順が叫ばれていますが、鳥取県西部地域も今年は降雪も少なく暖冬の様です。(山陰の冬本番はこれからでしょうか……)

2007年、災害のない穏やかな年になりますように。

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART 第37号

発行
・日野川への想いを語る会

編集事務局
・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537
米子市古豊千678
TEL (0859) 27-5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りごしない。待ちようけんね。

